

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100877		
法人名	社会福祉法人生き生き館		
事業所名	グループホームケアポート生き生き館原尾島		
所在地	岡山市中区東川原361-1		
自己評価作成日	平成25年3月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成25年4月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「心の通うづくり」を理念に掲げ、高齢者の日常生活を支援しています。ご利用者様の笑顔がみえる介護をしたい、家族に喜んでいただける介護を目標にしています。また当事業所は複合施設になっており、特養施設、ショート、小規模多機能型施設が、他事業所との交流も可能であることから、多様なニーズに対応できること。さらに岡山県内にグループが運営するデイサービス、ヘルパーステーション、居宅支援事業など、多様なサービスの提供が可能になっています。それぞれの利点を生かし、ご利用者様、ご家族様の個々のニーズに合わせた適切なサービスの提供に取り組める点です。グループホームは、利用者に1週3回の入浴を提供、またリハビリの一環として担当の機能訓練員のこべつ対応を受けることができます。レクリエーションや体操に力を入れて、いつまでもお元気に楽しく過ごしていただけるように頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2ユニットのグループホームで特別養護老人ホーム、ショートステイ(今年に再開予定小規模多機能ホーム)との連携を図る事で複合施設のよさを活かした支援が行われている。音楽療法を取り入れ、好きな歌、懐かしのメロディーなどを唄い又、聴く事がストレスの解消、脳への刺激等になっている。又、レクリエーションや体操、摂取嚥下のリハビリなど取り入れ入居者の元気を毎日をサポートしている。職員を育てる取り組みも進められており能力を伸ばし、仕事のやる気、不安なく業務が行える様な体制づくりに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心の通うづくり」を理念として揚げ、職員全体に周知されるように、申し送り時に全員で唱和を行ってから業務に取り組むようにしています。	理念を意識付けしていくため思いやりの気持ちで毎朝朝礼時に唱和されている、横の連携が出来るように「報、連、相」申し送りがなされている。	これからも職員への理念の浸透と理解に向け取り組まれる事を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域運営会議を行い地域の人の交流をし、意見をいただいています。また小学校の児童等に行事に参加していただいたり、小学校の音楽会などに参加させていただくなどの相互交流を行っています。	地域の会合には代表自ら出向き交流されている介護予防教室を開き手先を使ってのおやつ作り、老人クラブ等への出前講座を実施。小学校とは七夕、敬老の日、音楽会等交流がなされている地域の避難場所である貯水槽もある事も良く知られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の広報、老人クラブなどへお知らせを行い、月に1回のペースで当館の地域交流スペースを活用し「介護予防教室」を実施。また老人クラブなどの依頼で「出前講座」を実施し、情報提供をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の状況や地域情報等の交流、周知を行い、地域からの意見や要望などが介護サービスに生かせるように努めています。	運営推進会議を開催し参加者へ、現在の取り組み内容について詳細に意見等頂戴しサービスに活かせる様に努めている。	GHとして、出来る範囲から取り組みられ小人数でも実施される様期待しています。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	岡山市や県からの情報は速やかに回覧にて職員に報せ、わからない点については、その都度、相談、指導を受けています。	市町村の担当者と日頃から連絡を密に取り情報は速やかに回覧して職員に知らせている。解決出来ないことがあれば担当課へ質問し一つひとつ指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を併設の施設と合同で毎月実施しています。また身体拘束が必要な場合には家族の同意を得て実施し、2週間ごとにカンファレンスを行い検討・更新をしています。	原則身体拘束はしてはならない強い決意で望んでいます。勉強も毎月実施、しかしリスクを伴うのであれば家族と話し合い良策対応を迅速に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルに沿って、常に話し合いを行い、意識の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について、司法書士会より講師を招き勉強会を実施。利用者からの相談に対応できるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書、重要事項説明書を十分に説明し、同意をいただいでから入居していただいています。改定時にはお手紙等でご案内し、来館時等に声掛けし、理解・納得をいただくように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を通じて全体の意見をいただいています。また来館時に意見や要望を伺い、ケアやサービスに生かしています。職員間には連絡帳などを通じて、意見や要望を周知し、場合によっては会議等で話し合い、運営に反映しています。	家族会に参加された時常に問いかけ意見や要望を伺っている、ミーティングで話し合いケアやサービスに反映させている。意見箱も設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	起案書で提案するほかに、代表や管理者が出席する職員会議を開催し、意見・要望の集約を行い反映しています。	起案書で提案、代表者や管理者は職員の要望を聞く様に職員会議へ出席し、意欲的に働くよう意識の向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員にそれぞれ役割分担を行い責任感を持って仕事をしていただくことで、やりがいにつながっています。職場環境については職員会議等を通じて改善に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は毎月実施。、外部研修の案内を職員に行い参加の機会を提供しています。新人職員にはシスター制度を設け、研修日誌等を通じきめ細やかな相談を受けられ不安なく業務を行えるような体制づくりをしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	専門職は各専門職会議に参加し、情報の把握に努めるほか、各種会議に出席し相互交流を通じて介護の質の向上を目指しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族にしっかりと日常の様子を伺い、本人とコミュニケーションを心掛けています。アセスメントに力を入れ、しっかりと声掛けを行い、寄り添う介護を通じて不安なく過ごしていただけるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所初日には、利用者の状況を電話にて報告。1週間程度は家族に様子を伝えていきます。また来館時には日々の様子をお知らせし関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の思いをしっかりと受け止め、本人にとって一番よいサービスが提供できるように、状況把握を行い、今何が必要なのかを見極めサービスにつなげています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活で今までやってこられていたこと、今できることは、できるだけ一緒にやっていくようにしています。たとえば食事の配膳や洗濯たたみなどには積極的に参加していただいています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も家族との関係を大切にさせていただけるように、ホームでの様子を連絡したり、消耗品の依頼や毎月のお手紙等でも様子を伝えていきます。また利用者にも家族の様子をお話しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来館された場合には、ゆっくりとお話できるスペースを確保しています。家族にもなじみの方やなじみの場所の話が出た時にはお伝えし対応をお願いしています。	昔の友達が家族と一緒に面会にこられた、馴染みの人間関係構築に努力されている、誰もが気軽に訪問出来、ゆっくりとお喋り出来るスペースも確保している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	朝、昼、夜の食事、おやつは一緒にホールでとっていただくほか、体操やレクリエーション、配膳や洗濯たたみなどを通じて、会話ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後にも家族から相談があれば、しっかりと対応させていただいております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時には、家族の希望、意向の把握に努めるとともに、日時用生活の様子をしっかりと把握してプランの作成に生かしています。	重度化に伴い、自己主張が少ない中で職員の「見る目、聴く耳、気付き」等で声掛けをし把握に努めている。家族の方から情報を得てどのように暮らすことがよいのか検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	いままでの生活歴や暮らし方、生活環境を家族等から情報収集し、サービス提供をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアを通じて、一人一人の心身の状態を把握するとともに、日常生活の状況から、有する能力の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーが中心となり、カンファレンスを実施、担当者会議を行い、現状に即した介護計画を並びにモニタリングを行っています。	ケアマネージャーが中心となり、家族の要望に応えるように担当者会議を行い一人ひとりがより良く暮らせるようモニタリングやカンファレンスを行い現状に即した介護計画作成に活かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の訴え、観察、介護者の判断、その結果、対応の4つに分けて記録を行っています。朝の申し送りを行い利用者の様子について共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の訴えを大切にしながら、既存のサービスにとらわれない柔軟な支援については家族とも相談しながら、サービスの多機能化に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	世代間交流として、近くの小学校との交流を行っています。また地域のお祭りなどの楽しいイベントへの参加も検討中です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一度かかりつけ医に往診をお願いして健康管理に努めています。ホーム職員は日常の様子を伝え、適切に医療がうけられるように支援させていただいています。	2週間に一度かかりつけ医の往診、歯科医の往診、家族と受診、医療機関との関係を大切にされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常の気づきの中で、異変を発見した場合には、速やかに看護職員に伝え、適切な指示をうけています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者に異変が生じた場合にはかかりつけ医を通して医療機関と連絡をとり、対応しています。入院等の対応時には、篆書にて情報を送り、また退院時には情報提供をいただき、医療機関との双方向の情報を共有しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化する前に家族・医師と相談し対応しています。終末期に向けたケアは、現在行っておりません。	早い段階から、本人、家族と話しあい医師と相談している。看取りは現在行っていない。	事業所で出来る事を全職員で話し合い終末期に向けた方針と共有に努められる事を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に備えて、日ごろから対応できるように研修等を行っています。特に、初期対応については、状況把握をし看護師と相談しながら対応しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難路について、事務所に案内し、職員で確認をしています。避難誘導訓練を年2回、消防署の協力を得て、夜間を想定した訓練を年1回行っています。	年2回消防署に協力参加してもらい、又夜間を想定した訓練を1回実施、マニュアル、避難路を掲示し一目で見えるように、職員で確認している。時にはグループホームのみ突発的訓練を実施している。	複合施設でもあり訓練は許される範囲で何度実施されても良いと思いません、百間川の増水、津波も想定し今後も地域との協力体制を築いて取り組まれる事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護マニュアルを作成しており、個人のプライバシーに関して人格を尊重したケアを実施しています。なお、居室は個室対応でより個人のプライバシーの保護に努めています。	人生の先輩でもあり否定や説得をすることがないよう気持ちのこもった言葉掛けに努めている。個人のプライバシーの保護も保たれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を聞くことは難しい点があります。食事の残されている様子やレクを楽しまれている様子、日常生活の様子などから把握に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課を決めて過ごしていただいておりますが、できるだけ利用者様のペースを大切にしています。食事時間の調節や好きな飲み物を飲みたい時間に提供、昼寝の時間をとるなどの工夫をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床介護時に、着たい洋服を一緒に選ぶ、入浴後にクリームをつける、行事の日には化粧をしていただいたり、普段でも口紅をさすなど、楽しんでいただいております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、献立表を提示、食事前には献立を発表。楽しく食事できるようにテーブルの位置なども工夫し配膳等も手伝っていただいております。行事の一つとしておやつづくりを行い、利用者様の楽しみの時間を作っています。	一日の献立表を掲示し今日は〇〇と〇〇ですよと声を出して伝える、盛り付けのお手伝い、手作りのおやつ作りがされている、嗜好を聞き煮物、カレーライス、巻き寿司、散らし寿司等もメニューに加えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により管理された献立で食事を提供しています。また水分は一日を通して確保できるように、10時、3時にはお好きな飲み物で、食事時にはお茶をお出ししています。一日の水分量、食事は記録をとり体調管理をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝時に口腔ケアを行っています。また義歯の方には、義歯をはずし、消毒して、常に清潔保持をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意がある方は自由にトイレに行っている。他の方はトイレ介助の時間を決めて行っています。パット、リハパンに失禁がみられる方については、介助にて交換をさせていただいています。夜間も同様の対応をしています。	一人ひとりの排泄のパターンを把握し、羞恥心や不安がないように、又失敗した時は本人が傷つかないように配慮した支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便チェックを記録し、3日以上の方には「センナ茶」を飲んでいただき、できるだけ薬を使用しないようにしています。医師、看護師、栄養士等に相談し対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1週間に3日以上を目標に取り組んでいます。のんびりと入浴していただけるように個別で対応、入浴の時間を楽しんでいただいております。時には温泉の素を入れた入浴等も検討しています。	ゆっくり、のんびりと湯につかり入浴される人入浴拒否の人はタイミング、言葉掛け等の工夫をし各々に合わせた柔軟な対応がなされている温泉気分を味わってもらう(温泉の素)入浴検討もされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はほとんどホールで過ごされていますが、居室に戻って休まれることもあります。また畳のスペースもあり、そのうえで休まれる方もいます。リネンは毎週1回以上、交換し気持ちよく休んでいただけるように環境整備を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、薬剤師、看護師と協力して誤薬がないように管理しています。また職員には薬の目的、処方等を周知徹底し、服薬は確認しながら、きちんと飲まれるまで確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	配膳や洗濯たたみなど、できることをいただいています。また楽しみとしては、おやつづくり、季節の行事、音楽を楽しむ会などを順次行っています。レクでは紙芝居や本の読み聞かせなども行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所の前に河川敷があり、外気浴を楽しんでいます。散歩に行ける方も少なくなっています。家族と一緒に外出される方もあります。歩ける方は小学校の音楽会や近くの神社などに出かけることもあります。	季節をいっぱい感じたり見たりが出来るドライブを楽しんだり、外気浴を車椅子の人と共に土手に上がったり、歩ける人は小学校の行事や近くの神社へ出かけ、心地よい気持ちに浸ってもらえる支援がなされている、受診時には家族と外食等もされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持ってこられている方はおられません。たまに家族と一緒に館内に設置されている自販機で飲み物を買ったり、外に、買い物に行かれる方もあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかけさせていただいています。手紙を書いてほしいとの希望は少ないですが、遠くの家族から手紙が届く方には、読んであげたり、居室に貼ったりして楽しんでいただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、居室の環境整備を行い、またトイレ、フロアについてはハイター消毒を行って衛生管理に努めています。居室、フロアは朝と日中に喚起を行い、夜間12時にも各居室の湿度、温度の管理を行って行っています。また壁に季節の壁紙を貼り、季節を感じていただける工夫をしています。	共用空間は温度調節がされ、一日3回換気するなどいろいろと気配りされている。食卓の椅子はとてもおしゃれで、座位、立位の確保安全に対する配慮もされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには大型テレビ、ビデオを配置し、テレビや音楽が楽しんでもらえるようにしています。また隣接した畳スペースでは座って過ごすこともできます。テーブル配置を工夫して楽しく過ごしていただけるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の備品はベッド、カーテン以外は、本人、家族の希望で持ち込みとなっています。使い慣れた家具を持参されて、家と同じ雰囲気です。困り感でリラックスして過ごしていただいております。	思い出の品や使い慣れた家具などが持ち込まれ、また各部屋には加湿器が置かれており、安全で安心した生活を送れる様配慮が窺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	エレベーターホールは安全のため、利用者が一人で降りられないような工夫をしています。2ユニットのホールは行ったり来たりできるので、日常生活動作の維持、向上を目指すりハビリができます。安全に留意し見守りを行っています。		